



筑波大学
University of Tsukuba

成績評価を「学習のための評価」に

群馬県立高崎高等学校SSHの評価に関する情報交換会

2017年1月10日(火)13:10~15:30

田中正弘(筑波大学)

成績評価を「学習のための評価」に

- 「学習のための評価」とは、評価に関する情報を、**生徒の学習成果を高める**目的に用いることである。
 - 学習のための評価は、形成的評価と呼ばれる。
 - 総括的評価は、最終到達度を計るための評価である。
- 学習のための評価に必要な要素は下記の通りである。
 - 科目の到達目標を生徒が理解している。
 - 評価が学習の途中で行われる。
 - 評価の情報を生徒に伝える。
 - 評価に生徒も加わる。
 - 評価の情報を学びの改善に用いる。
- エスメ・グロワート著，鈴木秀幸訳（1999）「教師と子供のポートフォリオ評価」論創社。

- 科目の到達目標を明確化する。
 - (例) 生徒は〇〇の知識を用いて、△△ができる。
- その到達目標を生徒が理解する。
 - 到達目標は平易な記述を心がける。
 - ルーブリックなどの形で提示する。
 - 生徒に伝え、理解させる (思っているより難しい)。



- 到達目標を生徒が正確に理解していない場合、自己評価に問題が生じる。

- 学習のための評価は学習の途中で行う。
 - なぜなら，その評価結果を学びの改善に用いるため。
- よって，教師は生徒の学習プロセスを**観察**し，その状況を評価し，かつその結果を生徒に**適宜伝えていく**必要がある。
 - 教師の**フィードバック**が不可欠といえる。
- 学習のための評価は生徒自身も行う。
 - **自己評価の指導**が不可欠といえる。
- 評価について，教師と生徒の情報共有に便利なツールが，**学習ポートフォリオ**である。

- 自己評価を正しくできる生徒は，自らの学びの利点・欠点を知ることができる。
- 自らの利点を伸ばし，かつ欠点を改める方法を自ら探求できるように指導することが，教師の重要な役割となった。
 - 我が国の高等学校で形成的評価が普及せず，総括的評価が重要視される理由の一つに，ペーパーテストの点のみで入学を判断する大学入試制度がある。

評価の小道具

(ルーブリック・ポートフォリオ)

- ルーブリックの定義（文部科学省）
 - 米国で開発された学習評価の基準の作成方法であり、評価水準である「**尺度**」と、尺度を満たした場合の「**特徴の記述**」で構成される。記述により達成水準等が明確化されることにより、他の手段では困難なパフォーマンス等の定性的評価に有用で、**評価者・被評価者の認識の共有**、複数の評価者による**評価の標準化**等のメリットがある。
- 出典：中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」37頁。

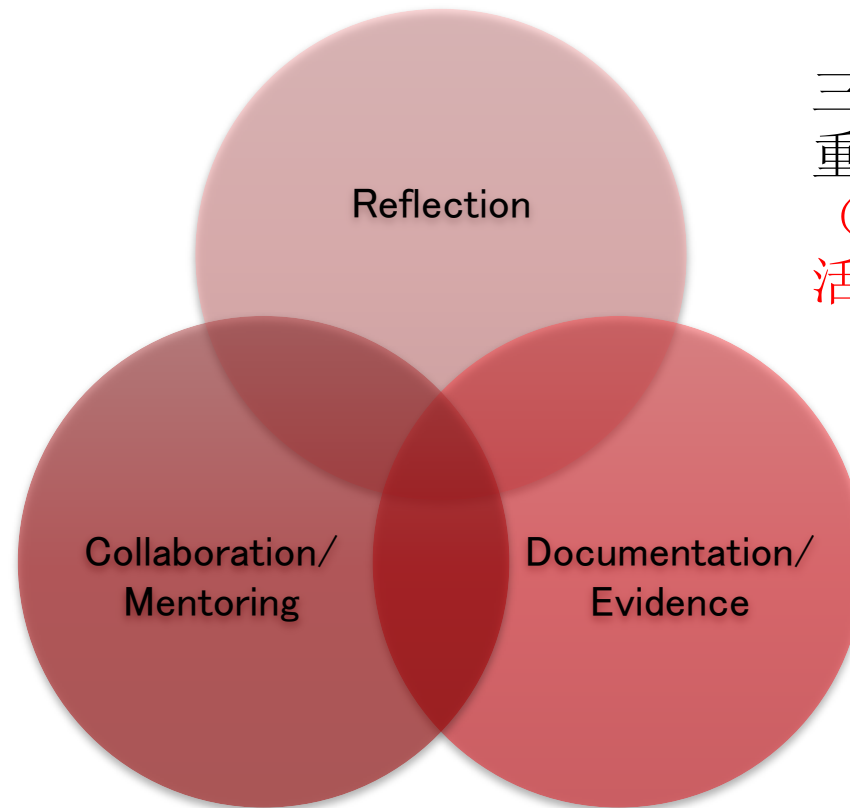
ルーブリックの例（弘前大学基礎ゼミ）

評価(尺度)	4	3	2	1	0
達成目標					
1) 自主的な学習態度を獲得すること	授業内容や、関連する新たな知識や技能に対して興味・関心を持ち、常に自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、常に自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、時々自主的に学ぶことができる。	授業内容に対して興味・関心を持つものの、あまり自主的に学ぶことができない。	自主的に学ぶことが全くできない。
2) 課題発見能力を高めること	重要度の高い新たな課題を発見し、その課題解決のために、具体的な作業計画を立て、かつ実行できる。	新たな課題を発見し、その課題解決のために、具体的な作業計画を立て、かつ実行できる。	新たな課題を発見し、その課題解決のために、具体的な作業計画を立てられるが、実行できない。	新たな課題を発見できるが、その課題解決のために、具体的な作業計画を立てることができない。	新たな課題を発見できない。
3) 資料(情報)の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集し、多くの人が活用しやすい内容に整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集し、自分が活用しやすい内容に整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切な方法で収集できるが、活用しやすい内容に整理できない。	必要な情報を適切な方法で収集できるが、信用できない内容も含まれている。	必要な情報を適切な方法で収集できない。
4) 基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に、かつ分かりやすく説明でき、批判に対して反論もできる。	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に、かつ分かりやすく説明できるが、批判に対して反論できない。	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に説明できるが、分かりにくい点が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できるが、不正確な内容が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できない。
5) 学生相互において、自分の意見を伝えられる基本的なコミュニケーション能力を獲得すること	他の人の意見を聞き、その内容を理解した上で、積極的に自らの意見を述べ、建設的な議論を構築できる。	他の人の意見を聞き、その内容を理解した上で、積極的に自らの意見を述べられるが、建設的な議論を構築できない。	他の人の意見を聞き、その内容を理解できるが、積極的に自らの意見を述べられない。	他の人の意見を聞き、その内容を理解できるが、自らの意見を述べられない。	他の人の意見を聞くことができない。
6) 安全で健康的な学生生活を送るための基礎知識を習得すること	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を継続的に実施し、自らが模範となる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を継続的に実施できる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守した上で、規則的な生活習慣を断続的ながら実施できる。	社会のルールやマナーを理解し、遵守するものの、規則的な生活習慣を実施できない。	社会のルールやマナーを守らない。

- 学習ポートフォリオの定義（文部科学省）
 - 学生が、学習過程ならびに各種の学習成果を長期にわたって収集し、記録したもので、それらを必要に応じて系統的に選択し、学習過程を含めて到達度を評価し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図るという、学生自身の自己省察を可能とすることによって、**自律的な学修をより深化させる**ことを目的とする。

- 出典：中央教育審議会（2012）「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」38頁。

- 自律的な学習を深化させるには、学習ポートフォリオに、どのような情報が記載されるべきだろうか。
- ポートフォリオは、その利用目的に応じて多様な情報が記載され、様々な形態が採用される。
- ジョン・ズビザレタ（John Zubizarreta 2009 : 23）は、いかなる目的で作成する場合でも、必ず含むべき要素があると主張している。その要素とは、下記の三つである。
 - 「**自己省察**」（reflection）
 - 「**証拠書類**」（documentation）
 - 「**同僚の助言**」（collaboration）
- 出典 : Zubizarreta, John (2009) *The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning*, second edition, San Francisco: Jossey-Bass.



三つの要素（円）が
重なる箇所で学修
（learning）が最も
活性化される。

出典： Zubizarreta, John (2009) *The Learning Portfolio: Reflective Practice for Improving Student Learning, second edition*, San Francisco: Jossey-Bass. p.25.

1) 自主的な学習態度を獲得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
2) 課題発見能力を高めること	事前評価
	中間評価
	事後評価
3) 資料(情報)の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
4) 基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
5) 学生と担当教員, および学生相互におけるコミュニケーションの場を作りだすこと	事前評価
	中間評価
	事後評価
6) 安全で健康的な学生生活を送るための基礎知識を習得すること	事前評価
	中間評価
	事後評価
7) 下記の質問から, 二つ選び, 回答してください。	
	A) どの項目が自分の最も良い成果ですか？ それはなぜですか？
	B) どの項目が自分の最も重要な成果ですか？ それはなぜですか？
	C) どの項目が自分の最も満足な成果ですか？ それはなぜですか？
	D) どの項目が自分の最も不満足な成果ですか？ それはなぜですか？
E) どの項目への取組が自分を最も成長させましたか？ それはなぜですか？	

まとめ

- 生徒が多く、知識を吸収し、その知識を適切に活用できることは大変重要である。
 - このため、ペーパーテストで知識の量と質を計る、総括的評価は必要不可欠である。
 - とはいえ、知識の陳腐化が早まった現在において、自ら学び続ける主体的な学習態度は生きる力として欠かせなくなった。
 - 主体的な学習を効率的に行うには、正しい自己評価（何ができて、何ができないので、何を行うべきか、これらを知り得ること）が求められる。
- 従って、学習のための評価の定着が全ての学習段階で期待されている。

ご清聴ありがとうございました。